

【旭区】令和元年第 3 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和元年 9 月 4 日（水） 14 時 30 分 ～ 16 時 45 分
場 所	旭区役所新館 2 階 大会議室
出席者	<p>【座長】木内 秀一 議員</p> <p>【議員：4 名】佐藤 茂 議員、古川 直季 議員、河治 民夫 議員 小粥 康弘 議員</p> <p>【旭区：36 名】下田 康晴 区長、小磯 行生 副区長、 岡ノ谷 雅之 福祉保健センター長、 齋藤 真美奈 福祉保健センター担当部長 渡邊 知幸旭土木事務所長、川村 滋 旭消防署長 ほか 関係職員</p>
議 題	<p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平成 30 年度旭区個性ある区づくり推進費の決算について 2 令和元年度旭区個性ある区づくり推進費の執行状況について 3 令和 2 年度予算編成の基本的な考え方について <p>【その他】</p> <p>帷子川改修事業市民意見募集について</p>
発言の 要 旨	<p>【議題】</p> <p><u>1 平成 30 年度旭区個性ある区づくり推進費の決算について</u></p> <p>木内議員：「2025 年を見据えた大規模団地再生モデル構築事業」について 委託費が予定より低かったため、決算額が予算を下回ったとの ことだが、事業の内容を縮小したということではないのか。</p> <p>中村区政推進課長：委託の内容については、縮小というよりも調査のやり 方を変えた。調査の中で、人口の流入の分析をしようとしたと ころ契約の相手方がすでにデータを持っており、調査委託をせ ずに分析することができた。住民アンケートについても、当初 記述式を予定し予算を計上していたが、地域との話し合いの中 で選択式の方が、より多くの住民に答えていただけるだろうと いうことで変えた。その分集計分析が安価になった。</p> <p>木内議員：大規模団地再生事業は、重要な事業のためよろしく願いいし</p>

ます。

河治議員：座長が今質問された事業で、旭区の状況は高齢者やいろいろな問題があるが、決算として500万円を活用した事業で得られたもの、こんなことがやっていけるという思いもあると思うが、モデル事業としてやってきた全体の内容を教えてほしい。

中村区政推進課長：昨年度の成果としては、「大規模団地再生ビジョン」を策定し、地域の方々と共有できたのが大きかった。例えば若葉台団地は、プランを地域の方々と話し合える環境がもともとできていたが、より具体的な取り組みや話し合いができた。

左近山団地も大学生に住んでもらうことで地域活動、地域コミュニティの活性化につながりつつある、ということも大きな成果だと思っているので、今年度も具体的な成果に向けて取り組みを続けていきたい。

河治議員：ひかりが丘、西ひかりが丘団地の地域の高齢化、地域コミュニケーションという点では、これまで区役所自身が見守りや支援等、地域に位置付けた取り組みがあったと思うが、その点で特にひかりが丘団地についてはどのような方向性が見えてきたか教えてほしい。

中村区政推進課長：ひかりが丘団地については、学校の跡地活用について住民の皆さんにどのような機能が必要か、意見を伺い、いかに地域のコミュニティを活性化できるかの話し合いを続け、そういった機会を活用して充実に努めてきた。

杉本高齢・障害支援課長：ひかりが丘団地については、市営住宅の生活援助員の派遣事業を進めている。実際に生活援助員の相談室の開催状況は、28年度から実施し、30年度まで件数は増えている。最初は290人だったが、30年度は356人。参加者についても30年度1,590人で、地域による取組が進んでいる。

合わせて、西ひかりが丘団地の自治会については、EPAの介護福祉士の候補生が地域とともに活動しはじめている。

河治議員：この事業と関わるかどうかわからないが、旧ひかりが丘小学校跡地について話し合い、検討を進めている中で、地域の住民は、様々な形で残してほしい、活性化したいと聞いているが、教育委員会は、そこまで踏み込めないとの話もある。

コミュニティハウスという点で旭区も関わるが、業者との話し合いも始まっていると思うが、どうなっているのか教えてほしい

中村区政推進課長：旧ひかりが丘小学校の学校跡地の活用については、地域の皆さんと話し合う機会を持っており、地域のニーズとしては、コミュニティハウスについて跡地の本格活用になっても続けてほしい、地域に開放してほしい、事業者についても地域に何かしらの貢献をしてほしいということ把握している。この地域ニーズを実現できるような事業者について、今後公募を踏まえて条件を整理して、本格活用に向けて検討を進めていきたい。

河治議員：方向性はこれからと理解してよいか。

中村区政推進課長：はい。

小粥議員：執行率については、予算額と決算の差が大きいところを順次質問したい。回答は簡単に、なぜこれだけの開きがあったかというところだけ教えてほしい。

まず、「健康生活支援事業～ウォーキングムーブメント創生～」は、106.1%の執行率だが、その原因として「ウォーキングフレンズ事業」で予算額約72万に対し決算額約180万になっていることが大きいかなぜ増えたのか。また「ウォーキングフレンズ事業」の中のウォーキングスタンプラリーは、多くの人に関心を持っていて、景品をタオルにし非常に人気があった。今年も実施するようだが、なぜ差引が出たのか教えてほしい。

小河内福祉保健課長：「ウォーキングフレンズ事業」では、当初「あさひまちウォーク」をやる予定はなかったが、実施したことで予算をオーバーした。3月9日に実施し、ウォーキングスタンプラリーで地域ケアプラザ13館を回ってポイントを集めていただいた方に景品を差し上げるというイベントで、その事業でオーバーした。地域ケアプラザも知ってもらいながら、歩いてもらったことは最終的に良かった。スタンプラリー大会については、予定していたもので、今年も引き続き景品を用意し実施する。

小粥議員：タオルを配ることは今年も行うのか。

小河内福祉保健課長：はい。

小粥議員：わかりました。次に旭区民スポーツ祭だが、毎年盛況で連合単位に皆さん頑張っているが、種目について、11種目のうち自治会によっては、子供が出る種目は参加できなかったとか、ある種目は人を出せない場合がある。種目に人を出せないと点数が下がり、全種目参加しないと上位に行けない。順位が固定化してしまう。競技種目の選定について、体育協会とともに進めていくと思うが、今後どのように進めていくのか。

神田地域振興課長：スポーツ祭については、毎年盛況で参加人数もこの5年に関しては微増している。種目によって参加点があり、全種目参加するところが上位に来る懸念がある。スポーツ推進委員で基本的にやってもらっているが、昨年参加点を下げ、その分上位に来た者には配点を多くした状況になっている。種目の変更については、2年連続で10地区未満の場合は、除外する規定があり、スポーツ推進委員と種目変更を考えているが、追加となるとスポーツ推進委員や審判を出している体育協会の負担が増えるので、慎重に判断しながら考えていきたい。

小粥議員：多くの世代の参加ができるスポーツ祭が望ましいと思う。次に、「保育所地域子育て支援事業」の「地域支援PR事業」だが、予算を4倍くらい上回っているがリーフレットを配ったからか。

松田こども家庭支援課長：園庭開放や一時保育等のリーフレットについては、「保育所を活用した養育支援強化事業」で予算の余裕が出たということで地域育児支援のPRを充実させた。

小粥議員：流用かもしれないが、当初わかっているのであれば、予算に計上してほしい。当初何が必要か、予算を策定する時点で綿密な予算策定をしてほしい。

次に「区民に身近で信頼される区役所事業」の二俣川発信コーナー運営について、決算0だが、情報発信コーナーが移動しなくなり、図書取次も含めて移動しないようだがその経緯と今後どうなっていくのか伺いたい。

中村区政推進課長：行政情報発信コーナーについては、移動の必要がなくなったので引き続き今の場所で、図書取次サービスも行っていきたい。

小粥議員：移動先予定だった場所は、二俣川地域ケアプラザの先だが、利用料とどのように差があったのかということもあるが、そのフロアの活用を考えた方がよい。二俣川地域ケアプラザへ行ってもその先まではいかない。区で何かあれば行く目的ができると思うがどのように考えているか。

中村区政推進課長：二俣川地域ケアプラザの活用ということか。

小粥議員：いやその先の場所で、相鉄のワークスペースだから借りないということだと思うが、二俣川地域ケアプラザの先が暗い感じになっている。区で活用できることがあれば、何か考えていることがあればと思い質問した。

次に「区政運営推進費」だが、予算をオーバーしている。「区民意識調査」が予算を超えているが、「まちづくり調整」も2倍増となっているが、この理由はなにか。

中村区政推進課長：「まちづくり調整」の主に増えた理由は、学校廃校後の利用について、音量の調査委託費が増えて、予算をオーバーした。

小粥議員：当初わからなかったのかというのが一つと、今年度の予算がかなり増額しているが、それは後ほど伺う。

次に「水・緑による旭区の魅力アップ事業」の「ふるさとの川環境学習事業」について、予算約34万に対し決算約19万とかなり執行率が低い。これは帷子川の学習となっているがなぜ低いのか。魚道を作り、アユの遡上ができるようになった。50周年を絡めて何かできればと言っていたが、特に50周年の事業とはなっていない。帷子川の関係で何かアクションプランがあったと思うが、せっかく魚道も作ったのでこの事業をもう少し盛り上げた方がよいと思うがその点についてどうか。

中村区政推進課長：「ふるさとの川環境学習事業」については、30年度は、29年度に比べ1校減って5校となってしまったのが大きな要因。引き続き参加できる学校、協力してくれる団体とも調整して充実に努めていきたい。

小粥議員：せっかく魚道も作り、アユの遡上も確認し県の調査も実施したので、川の活用をどうしていくか、どうやって子供達に開放していくか、その活用についてしっかり考えていただきたい。

佐藤議員：50周年記念事業でもあるジャズ祭りとロックオンミュージックの今年と昨年の来場者数を教えてほしい。

神田地域振興課長：ジャズ祭りについては、昨年度は、2,200人の来場参加があった。本年は集計中だが例年どおりか若干少なめだった。午前中から炎天が続いたことが響いていると思われるが、非常に盛り上がった。

中村区政推進課長：相鉄ロックオンミュージックについては、昨年度は3万人以上。今年度は11月に行われるため、引き続き集客に努めていきたい。

佐藤議員：3万人は、何日間ですか。

中村区政推進課長：2日間です。

2 令和元年度旭区個性ある区づくり推進費の執行状況について

河治議員：「SDGs 未来都市郊外部モデル創造」の「都心直通化を契機とした駅周辺まちづくりに関する基礎調査」について、250万円の予算について、240万の執行額で96%の執行率であり、どこまで事業が進んでいるのか。

中村区政推進課長：現在240万円の執行となっているが、調査の委託事業者について来週選定を進め、今月中に契約をしたい。予算額のうち240万円は、まだ契約はしていないが確定した額として計上している。調査については来月以降となる。

河治議員：96%の執行率となると調査が進んでいると感じたが、まだこれから契約なのかと思ったところだ。私達も地元の人達と何度も懇談をし、要望も出す中で、改善を期待している。地域の人達が自分たちのまちについて、意思を反映できるような機会をしっかりと作ってもらい、相談しながらいいものにしてほしい。具体的な概要を聞いたところ、3つの連合や周辺についても話し合いをしたいとのことだが、地域の人達の意見をしっかりと聞き、反映させてほしい。再度確認だが今後どんな状況で進められ、日程も決まっているのか教えてほしい。

中村区政推進課長：希望ヶ丘の3つの連合には、調査の概要について、お知らせしている。ヒアリングも行いますので協力依頼をしているところだ。駅前周辺について、乱横断などの課題も把握して

いるが、さらに課題を伺い、駅前の街の将来像などを聞きながらまちづくりの熟度を高めていきたい。

河治議員：まちづくりと道路は大きく関わるが、住宅地の道路、幹線としての道路、周辺のまちづくりに関わる道路があり、例えば子供たちが通学し、遠足に行くバスが学校の近くまで来てほしいなど地元から出されているものもあるが、まちづくりのスケールとして周辺ということが、区役所として、3つの連合だけでいいのか気になっている。区全体としてまちをこのようにしたいという大掛かりな部分に関わってくるのではないかなそんな思いがしているかどうか。

中村区政推進課長：ヒアリングについては希望が丘の3連合、商店街、地区社協、地区センター、地域ケアプラザ等の施設管理者、希望が丘のエリアにまたがる方々等広く意見を聞いていきたい。また道路については、局との連携も大事になってくるので区局連携して取り組んでいきたいと考えている。

河治議員：特に厚木街道の歩道の部分は、整備が不十分で、南希望が丘については、バス1台ギリギリ通るせまい町であるので、周辺という位置づけだが相当大掛かりな展望をして幹線を整備しないと町が整備できないのではないかな。ぜひ地域の人達の声が届くように、そのことが説明してもらえるように、町会の役員だけではなく地域の人達がフリーに参加できるようなそんな場所を作ってほしい。よろしくお願ひしたい。

中村区政推進課長：ヒアリングについては地区連長さんを中心に町内会の皆さんと相談しながら、なるべく広くご意見をいただける機会が設けるようにしたいと考えている。

河治議員：よろしくお願ひします。区づくりと直接関わることではないかもしれないが、地域の方から道路について横断歩道の白線が消えていたり、停止線が消えていて、土木事務所に話をしたり、旭警察にも話すが、警察に行くと「上申する。」と言われ、改善されず終わってしまう。区として何とかしてもらえないか。特に東希望が丘の小学校近くの横断歩道は消えかかっている。これでいいのか。区長どう考えているか。

下田区長：地域にとって重要な課題だと思う。タウンミーティングなどい

ろいろなところで課題を受けている中で、踏み込んだ形で警察との調整にも入って案を出している。昨今の事故で、警察の意識も変わってきている。我々としても全力でやるので、先生方も県も含めて警察がより動きやすいようにお力をお貸しいただきたい。大事な事だという認識について変わりはない。

河治議員： どういう場がいいのかわからないが、区づくり予算会議の場において、まちの運営という点では、警察が道路の問題についてははずせないの、何らかの形で懇談してほしい。タウンミーティングでは、地域のさまざまな要求について私達も掌握したいと思うのでタウンミーティングで出された意見については、教えてほしい。

下田区長： 地域については十分な意見交換をされているが、地域の承諾を得た上で、タウンミーティングについては、共有すべき内容の情報を流していきたい。

河治議員： 個別の問題として、旭区と保土ヶ谷区との区境道路、桐が作と岩井町の間公園の道路整備をよろしくお願ひしたい。図書館の駐車場での要望も後で土木事務所にお聞きする。

小粥議員： 「保育所地域子育て支援事業」の児童虐待臨床心理士の配置について、児童虐待については、昨今取りざたされており、「子育て・若者支援事業」では「子育て支援連絡会」や「ひとり親家庭相談事業」などの事業があるが、警察だけではなく、医師など多くの方々と連携が必要。虐待は、保育園だけではなく、幼稚園や小学校にもある。むしろ区独自でやるのいいかは別として、「保育所地域支援事業」に加え「子育て・若者支援事業」にもっと力を入れるべきだと思うがどうか。

松田こども家庭支援課長： 児童虐待については、大きな問題としてとらえており、様々な観点から支援をしていかなければいけない。そのために区独自の予算を使いながらいろいろな職種の方、地域の方とも連携した事業で取り組んでいる。配置されている専門職、社会福祉職、保健師、助産師などが様々なところとつながりながら児童相談所も含めて、福祉保健センター固有の業務として取り組んでいる。区づくりの事業を活用しながら一層充実させていきたい。

小粥議員：「旭ウォーキングムーブメント創生事業」の「ウォーキングコンテンツ整備」で450万円の予算があるが執行率がまだ0円だがガイドマップ作成ということでよいか。

小河内福祉保健課長：ガイドマップの作成を予定しており、子育て支援拠点にいらっしゃる小さなお子さんをお持ちの保護者の方にアンケートを実施し、こういった情報が載っていると使いやすいかを聞き中身を詰めている。これからデザイン事業者を決め、それから印刷する予定になっている。執行率としてはまだだが、ガイドマップの作成に使う予定だ。

小粥議員：「SDGs若葉台フロント事業」だがオンデマンドバスの実証実験となっており、新規事業として150万計上しているが、執行率0だがこれから活用するのか。

中村区政推進課長：「SDGs若葉台フロント事業」については、「SDGs未来都市地域主体型事業」の「若葉台団地における地域・企業・行政による協働事業」と一体となって行っており、オンデマンドバスなどの企業の取組を積極的に誘致していきたいと考えている。また廃校となっている若葉台西中学校についても、本格活用について検討が必要だということで事業にも活用していきたい。

小粥議員：執行率0は、これから今言われた事業に活用していくということか。

中村区政推進課長：はい。その事業に活用していく予定だ。

小粥議員：「区政運営推進費」だが「まちづくり調整」で約142万だが、昨年予算が35万に対し増えている。今回、区民意識調査はないが増えているのはなぜか。今年は執行しているということだがその理由は何か。

中村区政推進課長：「区政運営推進費」につきましては、廃校の音量調査を引き続き行うため計上している。年2回行い、1回は行っている。その分予算を執行している。

小粥議員：左近山小学校の音量調査だと聞いており、そのことは近隣住民の方からも聞いているが、何回も必要なのか。野球をやっているときの音だと思うが、予算をかけてやるべきことなのかも踏まえて、両者の調整をしてやっていただきたい。野球のことな

ので、旭区少年野球連盟の方とも調整して結論が出るようお願いしたい。

佐藤議員：「子育て・若者支援事業」について、ひきこもりの方々に対し支援をしているが、その中に障害児、障害者の認定を受けている方は何パーセントくらいか。

高橋学校連携・こども担当課長：支援を受けている方に対し、障害の認定を受けているか、いないかは聞いていないので、把握はしていない。何パーセントかは出せない。中には発達障害の方もいらっしゃるかもしれないが、分け隔てなく受け入れている。

佐藤議員：障害者認定を受けていると支援しやすい環境がある。働くためにも行政が手助けをして、会社にお金を出している等あると思ったので、ひきこもりの方々で障害認定を受けている方の割合が知りたかった。今後わかることがあったら教えてほしい。発達障害のことをお聞きしたいが、発達障害とはどういう方々を認定しているのか。

岡ノ谷福祉保健センター長：発達障害については、判断基準があり、医師が総合的に診断したうえで認定する。発達障害としては、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害や、LD、ADHDなどとされている。発達障害については知的障害を伴わないこともあり、現在、発達障害の方でサービスが必要な場合は、精神障害者の手帳を取得している。

佐藤議員：わかりやすくお願いしたい。

岡ノ谷福祉保健センター長：発達障害でよく言われるのはコミュニケーションが難しい方、特殊なこだわりが強く物事の感じ方、理解の仕方が難しいところがあるため支援が必要。LD学習機能障害は、文字や文章を読んだり書いたり、算数の計算などに困難があったりすることがある。ADHDは多動性、日常的に落ち着かず、日常の中で衝動的な行動をとることなどが顕著な状況。

佐藤議員：障害者認定は大人でも子供でも受けられるのか。

岡ノ谷福祉保健センター長：はい。判断基準により受けられる。

佐藤議員：発達障害児等支援事業で9回130人とあるが、内容はどのようなものか。

松田こども家庭支援課長：発達障害児等支援事業については、専門家を呼

んだ講義、支援の必要なお子さんのお母さんをお呼びし、グループミーティングを行い、お互いの悩みを共有し、気づき合っ
て、お子さんへの対応の仕方を高めていくことを実施してい
る。

佐藤議員：状況の重たい方々を集め、話し合いなどを行っているとい
うこと
か。

松田こども家庭支援課長：状況の重い方もいらっしゃるが、その疑い
のあるお子さんのいらっしゃる方の悩みの段階から、支援をして
いる。

佐藤議員：9回で130人と、いろいろな方々から相談を受けているの
か。
また、大人の場合はどうか。

岡ノ谷福祉保健センター長：社会適合に難しいところがあつて、コミュ
ニケーションが取れないような場合の支援施設として、市に「発
達障害支援センター」があり、相談を受け専門職が話を聞きな
がら、どういう問題を抱えているのかを組み解いて社会に適合
できるようにする。大人の場合は、本人が気づかないと診断に
なかなかいたらないので、周りの気づきと本人の理解が必要で
ある。子供の場合は、乳幼児検診等で発見の場があり、多くは
就学前に親に気づいてもらう。親が受容するタイミングを計っ
て療育センターを紹介するなどを行っている。区での事業は、
トレーニングでお母さんがお子さんを理解すること、言い方接
し方で変わるのでその訓練をする前提として、保護者同士が悩
みを共有化して取り組むところに向けての事業。この事業によ
って、療育センターに行っても保護者の方の理解がしやすくな
る。子供との接し方がうまくいくと学校に行くときや思春期を
迎えても安定してくる。このような取り組みをしている。

佐藤議員：次に「街の美化運動事業」の「不法投棄対策事業」につ
いて夜
間の不法投棄者に警告を実施しているが、効果は上がっている
か。

白井資源化推進担当課長：警報装置は、程ヶ谷カントリークラブの周
回道
路の入口と出口に一か所ずつ設置している。夜間、車を感知す
ると光を発するタイプで写真は撮れない仕様で、警告を発して
いるがどれだけ減ったかは把握はできない。警察や土木事務所

とも連携をとりながらこれから周回道路を回ろうとしているので、様子を見ていただきたい。

佐藤議員：いちごっこのように大変だと思うが、頑張ってください。
喫煙禁止エリアに二俣川駅周辺がなっているが、鶴ヶ峰駅もな
ってほしいが、区から局に働きかけはするのか。局で決められ
てしまうのか。

白井資源化推進担当課長：鶴ヶ峰駅は、美化推進重点地区になっており、
喫煙禁止エリアになる可能性はあるが、当面は二俣川の禁止エ
リアに指定したのでそこを安定稼働させて、鶴ヶ峰は美化推進
重点地区ということで、様子を見てほしいと資源循環局から言
われている。今回鶴ヶ峰駅を喫煙禁止エリアにしてほしいとの
意見は資源循環局のまちの美化推進課に伝える。

佐藤議員：「SDGs 未来都市地域主体型事業」だが、オンデマンドバスの
実証実験や大学や企業の実証実験の誘致に関する調査を検討
しているとのことだが成果は得られていないのか。

中村区政推進課長：調査をしているところで、結果待ちだ。

佐藤議員：結果が出たら教えてほしい。

古川議員：「SDGs 未来都市地域主体型事業」について、調査の結果がこ
れから出てきて、企業や大学の研究機関に実証実験ができるこ
とをアピールし、これからいろいろなことに展開できるように
したいとのことだが、まだ区民の中には、SDGs とは何なの
かという方も多い。せっかく良いことをやっているのだから、わ
かりやすくどうやったら伝わるのかを考え、イベントを行ったり
、広報で工夫してもらったりしてぜひ頑張ってください。
大人もそうだが、小中学生にも教育上、旭区のSDGs と
リンクしていくため、校長会と連携したらいいと思う。11月25
日横浜市のニューヨーク事務所もオープンすることを子供た
ちに伝え、旭区に誇りを持ち世界とつながっていることを示
し、最先端のことをやっていることを発信してほしい。

50周年の事業のことで畠山重忠の名前が出てこない。周年事業
となると今までは名前が出てくる事業があった。インバウンド
の流れの中で、外国人は興味を持つ。相鉄線も都内とつながる
と畠山重忠が生まれた深谷市ともつながる。生まれたまちと亡

くなつたまちがつながる。坂東武者の鑑といわれた素晴らしい
武将で、小学校では畠山重忠の家紋を校章にしている学校もあ
る。これまで周年行事にはよく出てきたので、50周年を機にも
う少し区民の皆さんや子供たちに伝えたい。

河治議員：「水・緑・花を暮らしに取り入れた旭区魅力アップ事業」につい
て、温暖化対策推進事業は進めいていかなければならないとお
もうが、この事業のほかにあるか。

中村区政推進課長：温暖化対策推進事業については、「楽しくお家でエコ！
実践講座」は、毎月1回区役所で行い温暖化対策についての実
施している。また保育園、小中学校への緑のカーテンの資材の
提供や区役所にも緑のカーテンを設置し、温暖化対策に努めて
おり引き続き取り組みを広げていきたい。

河治議員：再生可能エネルギーを創出することにより一層世界的な動きに
含め、横浜市自身が進めていく課題になるが、旭区では、再生
可能エネルギーの立場から動きがあれば教えてほしい。

石川総務課長：再生可能エネルギーの関係では、「災害に強い区づくり事
業」の中の防災活動事業で、地域防災拠点にポータブル型太陽
光パネル及び蓄電器を配備している。旭区独自事業の取組で無
線機やスマートホンの充電ができ、8月末までに配備した。防
災拠点から使い方の問い合わせもあり、今後も活用されるよう
にしていきたい。

河治議員：ありがとうございました。ぜひこの事業を拡げてほしい。

3 令和2年度予算編成の基本的な考え方について

古川議員：基本方針はいいと思うが、国際園芸博覧会がなく、瀬谷区のこと
だから入れていないのか。住民が旭区に誇りを持つため、18
区の中でアイデンティティは何なのかと考えたとき、難しいが、例
えば、相鉄瓦版の旭区特集を見ると、畠山重忠が入っている。
子供達に説明できるまちとして、国際園芸博覧会は世界的なイ
ベントで旭区も関わるので全面に打ち出した方がいい。一つの
意見として聞いて頂きたい。

また、交通安全について、旭区は、高齢者が多いので高齢のド
ライバーや歩行者も多いため、事故に巻き込まれることも多く

なる。その取り組みとして、横断歩道は歩行者がいたら、車は一時停止しなければならないが、止まらない車が多い。旭区は高齢者が多いまちだから、「旭区は、横断歩道の車は、止まるまち」という意識啓発をしたらといいと思う。

下田区長：国際園芸博覧会については、旭区は、政策局から予算を受け、9月8日防災訓練の後に防災訓練に参加した方と日頃から里山ガーデンをサポートしていただいている愛護会の方に参加してもらい、里山ガーデンの管理棟の一番目立つところにある旭区民が作ったフォトスポットができる。旭区は、里山ガーデンのお膝元だというそのメッセージの中に国際園芸博覧会を呼ぼうというメッセージを入れている。区民の中にはまだ浸透されていない部分があるので、花を愛する区民の中で取り組み、写真を撮ってもらうスポットにすることで子供やいろいろな方たちに興味をもってもらうということで踏み込んでいる。予算編成の中で方針が出てくると思うが、やろうとはしている高齢者が多いということは重要なテーマで、事故に巻き込まれる。高齢者が事故を起こす当事者になる、山坂を上ることも厳しくなりその問題意識を出したうえで地域の交通を考えたときテクノロジーも含め議論していこうと思う。事故にあわない啓発も絡めながらこの辺のテーマについては、リーダーシップをとるつもりだ。18区の中でも引っ張ってやっていきたい。ご指摘を踏まえやっていきたい。畠山重忠については、様々な意見があるが歴史として、旭区の財産として、広く活用していきたい。

【その他】

帷子川改修事業市民意見募集について

河治議員：東洋ガラスの工場用地の移転は、どこまで進んでいるのか。

河川事業課長：会社のホームページ等からの情報だが、移転先については鶴見区内、移転の時期は令和3年度末には新社屋に移転完了し、現状の工場の解体も終了すると聞いている。

河治議員：一番の大きな課題は、工場の移転だったと思うがめどがついたとを感じるが、その他民地の用地買収はどうなっているか。

河川事業課長：基本的には予定地には交渉しており、これからも継続的に

やっていく。

河治議員：この工事については、事業として全体的にこの帷子改修はおおよそ何年度までの予定か。

河川事業課長：今回の事業は令和 15 年までと事業をお知らせしたが、それから上流になるがそれ以降になり、正確に何年に終了するかは、河川事業の場合、なかなか明確にお示しできない。今回の区間は過去に浸水被害があったところなので、先行して集中的にやっていきたい、事業完了年度は現時点では、正確にお示しできない。

河治議員：基本的に工事については、1 時間に 50 ミリの雨に対応できる工事ということでよいか。昨日の大雨時の状況について教えてほしい。

河川事業課長：横浜市内の河川工事については、1 時間に 50 ミリに対応できるのが原則だ。鶴見川とか境川などの大規模河川だと流域対策も含め、1 時間 60 ミリ対応だ。帷子川については県の定めた河川整備基本方針の中で、最終的には 100 ミリとなっているが、現状では県の中でも 50 ミリということで進めている。
昨日の大雨だが、都岡小学校付近で 1 時間に 50 ミリ降ったようだが被害は出ていない

石川総務課長：正確には都岡消防署の雨量計で 19 時に 1 時間に 45.5 ミリだった。

河治議員：ありがとうございました。よろしくお願いします。

佐藤議員：フジテレビの報道で港南区の降水量が 1 時間に 37 ミリといていたが、車が浮いてしまっていた。港南土木事務所の計測は、わかるか。

河川事業課長：近隣の消防署のデータを見ると、1 時間に 78 ミリだった。平成 26 年台風 18 号のデータが、1 時間に 78 ミリだったので、現状の気象の中ではどこでも起きうる。1 時間に 50 ミリをゆうに超える雨は、秋雨前線でも起きることが証明されたと認識している。

佐藤議員：情報番組ではあるが、横浜は 50 ミリ対応で、37 ミリで洪水になっていることを報道していたので、抗議した方がいい。

その他

	<p>河治議員：四季めぐり号が実証実験ではあるが、6月3日から再開された。3か月たったが状況はどうか。</p> <p>中村区政推進課長：現在の状況は目標に近い状況になっている。運行継続ラインが75人だが、現段階で74人に達している。検討委員会で、引き続き周知PRをしていく話し合いをされており、新たに9月から車の中に手すりを付けたり乗降ステップを設置しているが、引き続き乗りやすい環境を作っていきたい。</p> <p>河治議員：ありがとうございました。</p>
<p>備 考</p>	<p>会議の議事録作成については座長に一任で異議なし。</p>